

2021年8月1日（日）聖霊降臨後第10主日
平和聖日 銀座教会 家庭礼拝

礼拝招詞 「どうか主が民に力をお与えになるように。

主が民を祝福して平和をお与えになるように。」 詩編29編11節

主の祈り

天にまします我らの父よ、願わくはみ名を崇めさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を今日も与えたまえ。

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。

我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり。

アーメン

使徒信条

讚美歌 531 こころの緒琴に み歌のかよえば

聖書 マルコによる福音書5章24B～34節

大勢の群衆も、イエスに従い、押し迫って来た。25 さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。26 多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。27 イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。28 「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。29 すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体を感じた。30 イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。31 そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」32 しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。33 女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。34 イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい。」

牧会祈禱

天の父なる神さま。8月平和聖日を迎えました。世界の歴史を通して、私たちの罪み深さの思い起こし、御前に懺悔いたします。軍国主義の過ちをくり返すことなく世界平和を祈り願う現代におきましても、悲劇がくり返されています。神さま、聖霊により私たちの傲慢を打ち砕いて下さい。世界平和を諦めることなく求める続けることが出来ますようにお導きください。神の御前に跪き祈る姿勢をお与えください。

8月子どもたちは成長のために大切な経験を積む日々です。子どもたち一人一人に

霊的成長をお与えください。全国の諸教会で神学生の夏期伝道実習が行われようとしています。大切な研鑽の時となりますようにお導きください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

説教 「「あなたの信仰」と語り、喜ぶ主イエス」

牧師 高橋 潤

主イエスの前には大勢の群衆が集まっていました。この群衆の中には様々な人がいました。主イエスに対して救いを求めている人もいましたが、悪巧みをしている人もいました。主イエスに対して大きな期待をもっていた人々と主イエスに対して悪意をむき出しにしている人も群衆のなかにいました。

マルコによる福音書書3章6節を読むと、当時の神殿の宗教的指導者が「どのようにしてイエスを殺そうかと相談し始めた」と書かれています。5章を読むと主イエスが悪霊に取り憑かれたゲラサの人から悪霊を追放し、正気に戻して救い出しました。その時命乞いをした悪霊たちに豚の中に入ることを許し、2千匹の豚が崖から湖になだれ込み、溺れ死んでしまいました。豚を犠牲にしたことから豚飼いの恨みを買って、主イエスは町から追い出されてしまいました。主イエスの前の群衆には、様々な人がいたのです。

群衆の中の一人に、主イエスによって重い病気を治してもらいたいと願って、勇気をもって主イエスに近づいて来た女性がいました。主イエスを殺そうと相談している人々は、この病気の女性を律法によって「汚れた者」と見なしていました。彼女は長年の病気の苦しみだけでなく、汚れた者として取り扱われる宗教的苦痛と共に二重苦を受けて耐えていました。この精神的な苦痛は、人々との交わりが禁止されていることです。律法によれば、この女性は、群衆の中に紛れ込むことも、主イエスの前に出て治して下さいとお願いすることも律法で禁じられていました。この女性は12年間も病気の辛さだけでなく、医者からもたらい回しにされたあげく見放され、全財産を使い果たし、律法によっても縛られていました。絶望のどん底で自由に身動きさえ出来なかったのが長血を患う女性でした。

そのような暗闇の中、途方に暮れていた彼女が、主イエスの名前を聞いて、光を見つめました。女性は絶望のどん底で「この方の服にでも触れれば」という最後の願いを与えられました。一縷の望みをもって、当時の律法では禁じられている行為を実行しました。群衆の中に入って行きました。主イエスの後ろまで進みました。そして、主イエスに声をかけることもなく、ただ主イエスの後ろから主イエスの服に触れました。

「すると、すぐ出血が全く止まって」病気が癒やされました。群衆の中での出来事です。主イエスの後ろから主イエスの服に触れる人はたくさんいたと思います。誰が触れたかなど、普通は分からないと思われます。しかし、主イエスは、誰かが救いを求めて触れたことと、その救いを求める女性の手に「自分の内から力が出て行ったことに気」づいたのです。主イエスは、ご自身の内に、彼女が触れたことに対する手応えを感じました。主イエスが手を触れて癒したのではなく、主イエスにより頼む願いが、主イエスの力を引き出し、癒やしにつながりました。主イエスは「私の服に触れたのはだれか」と探します。癒しを求めて後ろから触れたこの女性は、罪を告白するようにして、震えて主イエスの御前に呼び出され、すべてをありのまま話しました。主イエスは「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と語られました。主イエスは、この女性が抱いた一途な願いを「あなたの信仰」と語って下さいました。主イエスの名を聞いて、主イエスに会った

こともないのに、心の中の願いを信仰として受け止めて下さいました。主イエスの名を信頼することによって「信仰」が与えられたのです。この女性を救う力は、律法を克服し、絶望のどん底で力を発揮しました。主イエスは「この方の服にでも触れれば」との一途な信頼を受け止め、「あなたの信仰」と呼んで、喜んで下さいました。

旧約聖書レビ記 15 章 19 節以下、出血による汚れについて記されています。この律法によれば、12年間長血を患っていた女性は、出血が止まり清めの期間が終わらないかぎり汚れたまま取り扱われました。しかし、主イエスは、律法によって汚れたとされた彼女の出血を止める癒しをもって愛の業を実現させました。

聖書の御言葉は、主イエスが群衆の中からこの一人の女性と不思議な仕方であ会い、愛の業によって、主イエスの御力を経験させ、新しく生きる恵みを与えたことを示しています。主イエスは、これまで同様、汚れた霊に憑かれた者と出会ってくださったり、多くの人から嫌われ罪人とされていた徴税人を訪問したり、律法によって救われない一人一人を発見したように、12年間重い病に苦しめられたこの女性に出会って下さいました。

「この方の服にでも触れれば癒やしていただける」という思いを主イエスがそのままくみ取っていることを私たちはどのように理解したら良いのでしょうか。

日本においても、多くの神社仏閣において「触れれば御利益がある」とされる樹木や牛や猿などの銅像を見かけます。御利益を求めて、多くの方が触れている姿をみて、銀座教会にも、そのような物がほしいと思うのでしょうか。もちろんキリスト教会の信仰は御利益信仰とは根本から違います。それでは、どこがどう違うのでしょうか。

本日の聖書箇所、主イエスの服が御利益を生む特別な服だったのかということのようなことは何も書かれていませんし、この後、同じような救いを求め、御利益を求めて主イエスに触れたいという人が行列を作ったということなどどこにも書かれていません。すなわち、神社仏閣がここをなでると御利益があるかもしれないと宣伝するように、主イエスが私の服に後ろから触れるといいことがありますよと宣伝したことはないのです。確かに癒やされた女性は、主イエスの服にでも触れればいやしていただけると考えましたが、主イエスから出てきた話しではありません。最も大切なことは、この女性が主イエスの服に触れた後のことです。通常、御利益宗教であれば、誰でも何回でも触ってくださいという方向でしょう。しかし、主イエスは違います。この女性を探しています。30 節「わたしの服に触れたのはだれか」と言われました。なぜ、主イエスは彼女を探したのでしょうか。もちろん主イエスに断りもなく勝手に服に触れたことを責めるためではありません。癒やしたことを感謝させるためでもありません。そうではなく、主イエスは群衆の中にいるこの一人を探していたからではないのでしょうか。主イエスが群衆に語りながら、この一人と出会うことを主イエスご自身が求めていたからではないのでしょうか。長血を患っていた苦しみのただ中にいたこの一人の女性との出会いを彼女以上に主イエスが求めていたからではないのでしょうか。主イエスはこの女性との出会いを求めていたのです。この女性との人格的な交わりを求めておられたのです。ここが御利益目的とは全く違う世界なのです。人間中心

で人の求めをかなえようというのではなく、主イエスの方が苦しむ女性のうめきを聞き、嘆きを聞き、出会いを求めてくださっていたのです。だから、「自分の内から力が出ていったことに気づいた」のです。主イエスは、群衆を見つめながら、この苦しみのどん底にいた女性を求めてくださったのです。

彼女は、成熟したキリスト教信仰を理解していたかという点、全く理解していないと思われる。しかし、主イエスはそのようなことを問題にしていません。神学的に理解しているかどうかとか信仰理解の深さを問題にしないのです。そうではなく、主イエスの方から、心の底から苦しむこの女性を求め、彼女が主の求めに答えるようにして主イエスに触れたのです。

私たちは、自分など主イエスに相応しくないと考えてしまいがちです。私がどんなに求めても主イエスは振り向いてもくれないなどと勝手に考えてしまう者です。しかし、今日から聖書に照らして、そのような考えを捨てましょう。主イエスは相応しくない私たち、欠けの多い私たちの欠点を問題にするお方ではないのです。そうではなく、私たちの弱さ惨めさ、いたらなさを、誰よりもよくご存じの上で、私たちに会ってくださるのです。私たちが主イエスの前に立つ一人にしてくださるのです。

この女性は、自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話しました。主イエスは、未熟であっても主イエスに救いを求めた思いを受け止めて、「娘よ」と呼びかけてくださり「あなたの信仰」と喜んでくださったのです。「安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい。」この主イエスの御前に立つ時、私たち一人一人に対して与えられる御言葉です。主イエスが信仰をお与えくださるのです。

祈 禱(各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 病を負っている方々とそのご家族に主の癒やしを祈りましょう
命の危機、不安と孤独に直面している方々に主の恵みを祈りましょう
医療従事者の健康が守られ使命が支えられますように祈りましょう

讃美歌 195 いのちの君にます主よ

献 金
頌 栄 544

祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。 アーメン